

クローン

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

山田

主任

ファミレスの従業員控え室。制服（エプロンとか）を来たバイトの山田と主任がいる。

山田 主任、牛肉もうすぐ切れそうなんですけど

…。

主任 山田君ちょっといいかな。

山田 はい。

主任 どうだ？ 何か思い出したか？

山田 え？

主任 記憶。

問。

山田 …いや、何も思い出せなくて。…もう、戻らないんですかね。

主任 うん。

山田 え？

主任 いや…。君は自分が事故か何かで記憶を失ったと思っ

ているようだが。

山田 ええ、頭に傷が…。違うんですか。

主任 失ったのではなく、最初からなかったのだよ！

…。

山田 …どういうことですか。

主任 今から全てを話す。あることないこと。

山田 あることだけにして下さい。俺は誰なんです

主任 何か？ 何で主任が俺のことを知っているんですか。

…。

主任 何故君に記憶がないのかをいきなり説明すると

主任 ショックがあまりにも大きいから、その前に、

主任 まずクローンがどういうものかについて説明しておく。

…。

山田 え？ 俺クローンなんですか？

主任 (無視して) クローンっていうのは、細胞を採取して。

…。

山田 ちょちょよ、え？ クローン!?

主任 …そうだ。

山田 え？ 冗談ですよ。

主任 こんなこと冗談で言う程暇じゃないんだよ。ご飯もまだなの

…。

山田 そんな話、どうやって信じろって…。

主任 私の鞆の中に手つかずの弁当が…。

山田 ご飯の話じゃないですよ！ 主任って何なんです

主任 ですか？ ファミレスの主任じゃないんですか？

主任 私は日本の凄い頭のいい人が集まった研究

グループの主任なんだよ。

山田 その言い方にあまり知性を感じないんです

主任 けど。何でそんな人が、ファミレスで…。

…。

山田 副業は自由にやっていいんだ！

主任 何でさっきからどうでもいいトコカ込めて

主任 言うんですか。大事なことはサラッと言う

主任 くだせに。

主任 君は培養器の中でわずか三ヶ月で育ったんだ。

…。

主任 培養器…。

主任 我々の時間で一分かかるものが培養器の中

主任 では一時間で補えるんだ。違う逆だ。培養

主任 器の中の一分時間は、我々の時間で一分経つ

主任 たことに、違う。あれ？ まあいいや。

主任 諦めるなよ！ 凄い頭のいい人じゃないのかよ。

主任 科学は専門外なんだ。私はただプレゼンの

腕を買われて…。

主任 そっちもさっきから全然なってないよ。…

主任 大体、クローンの製造なんてやっていいのかよ。

主任 私だって本意じゃなかった。けど、私には

…。

山田 研究を中止する権限しか。

主任 だったら中止しろよ。その持ってるたった

主任 ひとつの権限を行使してくださいよ。

主任 そしたら、君はこの世に生まれて来なかつ

…。

主任 …本当にクローンなのかよ。

主任 …いきなりそんな宣告されたのでは、ショッ

山田 え？ クローンは？

主任 二次産物だ！

山田 ええ？

主任 クローン人間なんて、道徳的に禁止されて
いるだけで、実現可能なことは二十世紀中
にわかっていたことだ。そんな研究を発表
するなんて、解禁前にヘアヌード集を出す
ようなものだ。

山田 何の話だ。

主任 培養器は科学の粹だ。度重なる失敗の末、
漸く君で成功したんだよ。

山田 どれだけ俺と同じようなクローン作って殺
したんだよ！

主任 …本物の山田君さえ生きていれば、私だっ
てこんな実験しなくて済んだんだ！

山田 …本物の俺は何で死んだんですか。

主任 培養器の最初の実験台に。

山田 言ってること矛盾してるじゃねえか！ 何
で？ もともと成人だったんだろ？ 何で
培養器に入れちゃってるの？

主任 これが培養器だ。

山田 ちっちゃいな！ 自分でやってることわ
かってんの？ 殺人だろうが。

主任 殺人？ どうして？ 山田君はこうして私
の目の前にいる。

山田 …いや、マイケルに似てるって。

主任 君は我々に従うしかないのだよ。

山田 …俺は、一体これからどうすれば。

主任 君には、今まで通りの生活をしてもらう。

山田 え？

主任 君がクローンだと世間にはれるとまずいん
だよ。山田オリジナルのことが明るみに出
る。君はクローンであることを意識せずに、
今まで通り生活すればいい。

問。

山田 …だったら教えるなよおおお！

主任 君がクローンであることを知っておいて
もらわなければならぬ事情ができたんだ。

山田 事情って。

主任 …。

山田 何なんですか、事情って。

主任 欠陥が見つかった。

山田 欠陥って。

主任 私も信じられなかった。いや信じたくなかつ
た。いや信じてた。

山田 どっちだよ。

主任 私が至らないばかりに。君にこんな破廉恥
な思いを…。

山田 破廉恥には思っていないよ。その欠陥って何
なんですか。

主任 教えない。

山田 教えろよ！ それ聞かなきゃ気になって仕

主任 方ないだろ。

主任 聞いてどうする。

山田 あんたが言いかけたんだろ！

主任 いいんだな。

山田 いいから言っておいて下さい。…その前にクロー
ンって俺だけなんですよ。

主任 そうだ。

山田 何で欠陥があるってわかったんですか。俺
しかいないのに。

主任 ずっと観察してわかったのだ。

山田 観察って何ですか？

主任 君の生活を毎日二十四時間ビデオカメラに
記録していた。

山田 盗撮ですか？

主任 観察だ。

山田 …盗…。

主任 観察だ。

山田 いやだって…。

主任 観察だ。

山田 …。

主任 …。

山田 …で、欠陥って何ですか。

主任 クローン人間は、普通の成人男子の平均よ
り約三倍も性欲の自己処理頻度が高いこと
が判明したんだよ！

山田 それは欠陥なんですか？ 個人差ではない
んですか。

主任 とてもそう割り切ることはできない。

山田 そこはそっとしておいてくれたらいいことじゃないんですか。

主任 これで。

主任 本当に済まないことをした！

主任、去ろうとする。

山田 何でそんな強く謝るんですか。…何なんだよ。別にクローンは長生きできないとかじゃないんだろ。

山田 え？ 駄目だろ！
主任 ちょっと性欲が増すだけだ。

主任 ある意味死に急いでいるようにも見えた。

主任去る。終わり。

山田 煩いよ！

主任 君は本来の生殖活動によって生まれてきたわけじゃない。そのことが無意識下で、君を生殖活動への冒険ともとれる行為へと駆り立てていたのかも知れない。

山田 いいよ、そんな補足。

主任 君の体は君ひとりのものじゃない。大事にしたまえ。君を作り出すのに、一体どれだけのでんぶんをつぎ込んだと思ってるんだ。でんぶんくらいいいだろ！ 金つぎ込めよ！

主任 金は殆どかけてない。

山田 だから失敗するんだろ。

主任 さ、仕事、仕事。

山田 仕事仕事じゃねえよ！

主任 あ、牛肉、切れそうなんだっけ？

山田 いや、そんなことより…。

主任、培養器を渡す。